



さぎそう

帰国・外国人教育相談室だより

NO. 8 令和6年12月13日発行 世田谷区 帰国・外国人教育相談室 (梅丘中学校内)

§『ワールドルームけやき』(千歳小学校 帰国・外国人児童適応支援教室)

世田谷区立千歳小学校
土井郁世 宮澤美智子

千歳小学校帰国・外国人児童適応支援教室『ワールドルームけやき』では、海外で暮らし学んできた子どもたちが、日本の教育を受けることに不自由を感じることを無いう、言葉や学習の支援をしています。

「不自由さ」の内容や度合いは、それまで過ごしてきた言語や環境の違い、学習カリキュラムの違い、来日時々の学年による違いなどから生まれるもので、実に様々です。「ひらがな」なら読んで理解できる子、漢字圏から来たため読みは苦手だが漢字なら意味がわかる子、日常会話は不自由しないが学習言語まで至らない子。また、低学年では、多人数学級の斉授業の形態になかなか馴染めない子もいます。

これらの不自由さに対して、一人一人に応じた学習を進めていますが、どの子に対しても、教師がたくさん話しかけ、緊張をほぐすと同時に目の前の子どもが何に不自由を感じているかを見極めることから始めます。授業に使うテキストやツール、授業の方法も子どもに応じて変えていきます。

外国人児童に対する指導

世田谷区「帰国・外国人教育相談室」と連携をとり 36 時間の初期指導を受けます。その後、けやきルームの教師による指導に移り、**ディジー教科書**でふりがなを振り音読をしながら少しずつ内容を把握することや、「**かんじだいすき**」「**キソ学力アップ たのしい国語**」を使い、漢字や熟語などの語彙を増やすことをしていきます。「**国語習熟プリント**」のテキストは、教科書に載っている長文の内容を読み解く力をつけるのに役立ち、接続詞や助詞の使い方、文中での動詞の語尾の変化などにも慣れていきます。

帰国した児童への指導

日本語学校や家庭で日本語に触れる経験があるので、日常生活では困らない児童が多いですが、教科書の学習に使われる語句や日本文化に関する特有の表現、漢字などに難しさを感じる児童は多いです。「**日本語論理トレーニング**」では、主語・述語、修飾語などの文の構造を理解し、「れる、られる」などの丁寧語や受け身形、否定形などの動詞の変化を理解し、それらを使って文を作る力をつけます。そのほか、**語彙力アップ**や**作文の書き方**のワークブック、**多読速読の絵本**を使うこともあります。

今年度の指導の様子

児童の様子に応じて、国語や図書指導の時間を中心に週1~4回けやきルームに通い、個別指導を受けます。2学期には『けやきルーム音読作文発表会』を開き、保護者の方々や担任が見守る中、それぞれの学習の成果を発表します。新たな環境で戸惑いを感じながらも頑張っている子どもたちが学年やクラスを超えてつながることができる貴重な機会です。3学期は1年間学んだことの仕上げとして文集を作ります。



保護者の方々や在校生との連携

千歳小学校は海外からの転出入が非常に多いため、クラスに数名は英語や中国語などが堪能な児童がすでに在籍しており、彼らの協力は、けやきルームに通う児童が安心してクラスに戻るきっかけにもなります。保護者の方々が、全校生徒に向けて多言語で読み聞かせをしてくださるなどの国際理解へのサポート体制もあります。実に様々な国での生活を経験しているご家庭が多い千歳小学校では、「ワールドルームけやき」は保護者会の協力も得て、“適応教育”にとどまらず、在校生との相互交流を通して各国の文化を伝え合い良い影響を及ぼし合う相互啓発の機会を生み出しています。